

中耳炎手術あれこれ

松浦 俊博

中耳炎という病気は私も家族も縁がなく、耳に水が入って抜けないと炎症を起こす子供の病気だと思っていた。息子の妻がこの病気で手術することになり、にわか勉強をした。中耳は音を内耳に伝える部分で、鼓膜・鼓室・耳小骨・耳管じしょうこつからなる。耳管は鼻や喉とつながっており、そこを通過して細菌が侵入し炎症を起こすことを中耳炎と称するらしい。

息子の妻はカナダ人でバンクーバーに住む。ずいぶん前に中耳炎を患いその処置が不適切だったらしい。カナダにはメディケアと呼ばれる国民皆保険制度があり医療費は原則無料だが、優秀な医者が米国に流出したり、患者が治療を受けるための待ち時間がやたら長くなるそう。彼女はコロナ前に中耳炎の治療をカナダで受けたが、鼓膜に穴をあけた後、コロナ期間はほったらかされ、日本の病院で治療を受けたいと願っていた。鼓膜の再生を伴う手術になるので、ある程度安定するまで、例えば術後三か月ほどは飛行機にも乗れない。そこで息子は、家族で日本に長期滞在できるように仕事を調整したようだ。

治療プロセスは、細菌が住み着いた骨の空洞を清掃する乳突洞削開術にゅうとつどうせきかいじゆつ、鼓膜形成、更に必要なら耳小骨を形成する鼓室形成術になる。詳細は本人に聞きづらいので、私にはわからないままである。手術はうまくいったとのことで、翌々日に退院して二週間毎に経過観察を続けている。彼女はいろいろ不便な様子だ。

小学校一年生と一才半の子供を抱えての手術、しかも彼女は日本語が不自由という状況では人手不足が生じ、じーじの出番も何度もあった。息子が子供の面倒をみて、私が彼女の受診や入院手続きに付き添うという場面もあった。簡単な専門用語もわからず何度も戸惑ったが何とかなるものだ。また、息子の妻の保険証は当初未発行だったが、後日修正手続きをしてくれた。日本の医療は人にやさしいと感謝している。

数か月の日本滞在でも、孫は近所の小学校に行く。こんな子供を受け入れてくれる小学校にも、放課後に公園で孫と一緒に遊んでくれるクラスの友達にもありがたいと思う。